

秋銀、北都銀ファンド出資

湯沢市の新電力会社「ローカルでんき」の計300万円増資へ

湯沢市の新電力会社「ローカルでんき」（山内雄司社長）は、秋田銀行の「あきた地域活性化支援ファンド2号」と、北都銀行の「北都成長応援ファンド投資事業組合」の両ファンドを引受先とする第三者割当増資を行う。秋田銀と北都銀が24日、それぞれのファンド活用による同社への出資を発表した。出資額は両ファンドとも150万円で、計300万円。

ローカルでんきは、山内社長が経営する米穀・燃料販売の山内儀助商店が中心となつて昨年11月に設立。現在は小売電気事業者の登録申請をしている。

主に日本卸電力取引所（東京）から電気を調達。既存の送電網を使って湯沢雄勝地域の事業所を中心に供給する。月150万 kWh を売電し、2

年目以降の黒字化を見込んでいる。

秋田銀のファンドは、再生可能エネルギーの発電事業や後継者育成を目指す企業向けとして2012年に設立した。ファンド総額は5億円。

北都銀のファンドは、資本増強を図るベンチャー企業や自社独自の技術、知的財産を

持つ企業などを対象に昨年設立した。ファンド総額は3億円。

今回の出資について、秋田銀は「安価な電力供給や地域雇用の創出などを計画し、地域資源を継続的に活用しようとしている点を評価した」、北都銀は「収益を地域に還元するビジネスモデルを展望しており、公共性の高さや湯沢雄勝地域の活性化への期待を込めた」としている。

山内社長は「2地銀からの出資が決まり、大変ありがたく思う。ほかにも市内4社が出資を予定しており、しっかり事業を進めたい」と話した。

（棟方幸人、大石卓見）